

イガブチヒゲハナカミキリ *Stictoleptura igai* (Tamanuki)

【選定理由】

自然度の高い森林中に生息するカミキリムシで、県内では設楽町の原生林から知られているだけである。

【形態】

体長 18~25mm のやや大型のハナカミキリ。黒色で、上翅は赤褐色。触角は黒色と白褐色のまだらとなる。近縁のブチヒゲハナカミキリとは、オスでは後けい節が強く湾曲すること、メスでは前胸背が赤くなることで区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽町（竹内ほか、1980）からのみ知られる。

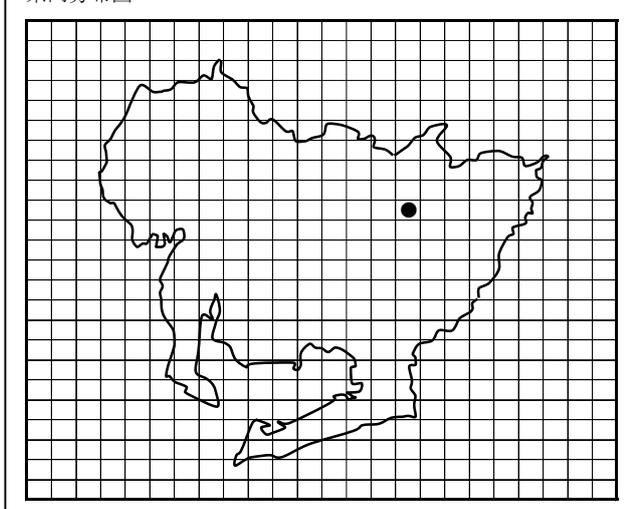
【国内の分布】

本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本の特産種である。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ブナ帯からトウヒ帯にかけて生息する。成虫は 7~8 月に出現し、ノリウツギなどの花に集まる。幼虫の寄主植物は、トウヒやサワラなどの針葉樹で、大木の中腐れから幼虫が発見されている。

【現在の生息状況／減少の要因】

原生林環境の減少により生息地は減少している。近年でも少数ながら採集情報もたらされており、細々ながら生息を続けている。

【保全上の留意点】

生息域であるブナ林の面積をこれ以上減少させないことが必要である。現在の原生林の環境を守るため、特に原生林に接する道路では、林縁部の過度な伐採は、林内への悪影響をもたらす危険性が高く、慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

設楽町には本県では珍しいモミ・ツガの群落が知られている。本種はその原生林内でツガを寄主植物として利用していると考えられ、この原生林を代表する昆虫の一つと位置づけられる。

【引用文献】

竹内克豊・原田猪津夫・松野更一、1980. 愛知県北設楽郡のカミキリムシ. 愛知県豊根村の動物: 231-285.

【関連文献】

湯沢宣久・蟹江 昇・河路掛吾・竹内克豊、1990. 愛知県のカミキリムシ科. 愛知県の昆虫, (上): 389-433. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)